

Y.T. 2015年卒 地域マネジメントコース

こんな学生時代を過ごしました

私の学生生活の中心には、入学とほぼ同時期に発生した東日本大震災への復興支援プロジェクトがありました。大学生生活が始まってすぐに未曾有の災害が起こり、「何ができるのか」を考え続けた結果、私は1年次から派遣メンバーとして活動することを決めました。大学の隣にある自衛隊小倉駐屯地が災害派遣で向かった南三陸町にご縁をいただき、以降は年2回のペースで被災地へ足を運び、長期的な支援を続けました。南三陸町では、町役場や障がい者福祉施設での活動、小中学校での授業など、多岐にわたる支援に取り組みました。また、仮設住宅を訪問し、高齢者の方々とお茶を飲みながらお話しする交流活動では、震災当時の状況や家族への想いを伺い、支援とは「物資や作業」だけでなく、寄り添い続ける姿勢そのものが大切であることを強く実感しました。さらに、被災地と北九州をつなぐ取り組みにも力を入れました。大学の猪倉実習と連携し、自分たちが育てた里芋を使って東北名物のいも煮を作り、イベントで販売して活動資金や支援金に充てたほか、北九州名物の焼うどんを地元の方から習い、南三陸町で振る舞うなど、双方が笑顔で交流できる企画を意識して実践しました。こうした活動は、ご縁を大切にしながら数珠つなぎのように広がり、単発ではない継続的な支援の形を築くことにつながりました。一方で、学業との両立にも力を入れました。特にゼミでは地域活性化や社会課題に関する研究に取り組み、被災地で得た気づきを理論的に整理し、発表やディスカッションを重ねることで、実習経験と学問を結びつける姿勢が養われました。授業ではフィールドワークやグループワークにも積極的に参加し、多様な価値観を持つ仲間と協働する力を培うことができました。振り返ると、私の学生生活は「人とのご縁を大切にし、つながりを広げながら学び続ける時間」でした。支援活動と学業の双方を通じて得た経験は、現在の価値観や行動指針の基盤となっています。



実習を通して、教室では気づけない多くのことを学びました。人との関わり方や現場の空気感など、どれも忘れられない経験です。

卒業後こんなキャリアを歩んでいます

地域創生学群では、地域の課題を多角的に捉え、関係者と協働しながら解決策を探る姿勢を学びました。中でも、東日本大震災復興支援プロジェクトへの継続的な参加は、地域の方々に寄り添いながら課題を発見し、長期的な視点で取り組む大切さを実感する経験となりました。この学びは、その後のキャリアにおける“現場での洞察力”や“ステークホルダーとの信頼関係構築”の基礎となっています。

卒業後は、飲料メーカーの営業企画部門にて、データ分析や販売戦略立案に携わりました。地域特性を踏まえた販促企画の設計や、数値に基づいた改善提案を行う中で、論理的思考と実行力を磨きました。また、部門横断での調整業務を通じて、組織内のコミュニケーション力や情報整理力を強化することができました。

その後、英国でMBAを取得し、実務経験を俯瞰しながら経営戦略やマーケティング、財務・会計の知識等を体系的に学びました。帰国後はコンサルティング業界に進み、ITコンサルタントとしてシステム導入支援やプロジェクト管理に携わっています。要件定義からユーザー部門との調整、課題管理、テスト支援など幅広い業務を担当し、現場の声を吸い上げながら最適なシステム運用に向けて伴走する役割を担っています。

地域創生で培った「現場に寄り添い、課題を丁寧にひも解く姿勢」は、今のITコンサルとしての働き方にも直結しており、これまでの経験が有機的につながっていると実感しています。

現役生へのメッセージ

学生のうちは、自分の好きや得意をゆっくり探せる時間です。社会に出たら、その得意をとことん伸ばすことが大きな力になると思います。様々な人と話したり関わったりすることで、ご縁が広がり、自分の道も少しずつ見えてきます。焦らず楽しんでください。



イギリスでの留学生活では、勉強だけでなく、気になった場所へ足を運ぶようにしていました。長期休みに出かけた先で出会った景色や人との出会いが、私の留学をより豊かなものにしてくれました。